

◆計画策定の目的

本市では、文化芸術振興基本法の理念を踏まえ、文化芸術創造の都市・堺をめざすため、平成27年に堺市における文化芸術振興の基本理念等を定めた「自由都市堺文化芸術まちづくり条例」（以下「条例」という。）を制定した。この条例に基づき、本市における文化芸術振興施策を総合的かつ計画的に推進するため、平成28年3月に「自由都市堺文化芸術推進計画」を、令和3年2月に「第2期堺文化芸術推進計画」を策定した。

この度、計画期間の最終年度を迎えることから、計画の成果及び計画策定後の社会情勢の変化や文化庁が策定した文化芸術推進基本計画（第2期）等を踏まえて、後継計画である「第3期堺文化芸術推進計画」（計画期間：令和8年度～12年度）の策定を行うもの。

◆現計画の概要

■計画のめざす姿

基本目標（条例） ■自由で心豊かな市民生活の実現
■都市魅力の創造

基本目標の実現へ

11の基本的施策（条例）

各施策の着実な推進

重点的方向性①：文化芸術とともに生きる

- 重点的施策1-1：文化芸術を通じた社会的課題の解決
- 重点的施策1-2：すべての人が文化芸術を享受できる機会の充実
- 重点的施策1-3：市民の文化芸術活動の機会の提供

重点的方向性②：文化芸術で子どもたちを育てる

- 重点的施策2-1：未来の文化芸術を担う子どもたちへの文化芸術に触れる場の提供
- 重点的施策2-2：子どもたちの育成に寄与する芸術家の育成

重点的方向性③：多くの人に魅力を伝える

- 重点的施策3-1：堺の文化資源を通じた市民意識の醸成
- 重点的施策3-2：市外、国外の人々への堺の文化資源の魅力発信

◆本市の現状

重点的方向性①：文化芸術とともに生きる

- ・堺アーツカウンシルや堺市文化芸術活動応援補助金の認知度は十分に拡大しておらず、文化芸術活動機会の創出に向けて更なる認知度向上が課題である。
- ・堺市文化芸術活動応援補助金（過去4年間で151件採択）を活用して、音楽や演劇、落語、写真等多様なジャンルの事業が地域会館や病院、福祉施設、神社等で行われ、多くの人が参加している。
- ・フェニーチェ堺や各地域文化会館で集客力のある事業を継続して実施したことにより利用者数増に寄与した。一方で文化施設の全体の稼働率は伸び悩んでいるため、施設の情報発信や幅広い世代の活用が課題である。

重点的方向性②：文化芸術で子どもたちを育てる

- ・芸術家派遣事業等のアウトリーチは一定の広がりはあるものの全てのニーズに対応できておらず、外部コーディネーターを試験的に導入するなどニーズに対応する取組を始めている。
- ・各指定管理者が実施する0歳からの芸術鑑賞会やこども向けワークショップ等、乳幼児を含むこどもが文化芸術を鑑賞できる機会（イベント）、教育委員会が実施する交響楽団芸術鑑賞事業を提供している。
- ・市内でのアウトリーチ事業に従事できる次代を担う若手芸術家の育成を実施している。

重点的方向性③：多くの人に魅力を伝える

- ・鉄炮鍛冶屋敷のオープン等はあったが、市が持つ歴史文化資源の魅力を市内外へさらに伝えていくことが課題である。
- ・茶の湯まちづくり条例がある堺ならではの茶の湯事業を実施し、茶の湯文化の浸透を図る必要がある。
- ・デジタル技術を活用した市の歴史文化資源をはじめとしたデジタル・アーカイブ化等の検討をする。

◆文化庁の動向（第2期文化芸術推進基本計画）

- 「ポストコロナの創造的な文化芸術活動の推進」：文化芸術団体の活動や担い手の確保・養成等、自律的・持続的に発展に資する支援（アーツカウンシル機能の強化等）
- 「多様性を尊重した文化芸術の振興」：性別、年齢、障害の有無や国籍等にかかわらず、誰もが文化芸術活動に参画、文化芸術価値を享受できる環境整備
- 「文化芸術を通じた次代を担う子供たちの育成」：子供たちによる文化芸術鑑賞、体験機会、継続して文化芸術に親しむことができる機会の確保
- 「文化芸術を通じた地方創生の推進」：長きにわたり継承されてきた豊かな文化資源を最大限に生かした地域振興の推進、観光、まちづくり、国際交流その他の分野と連携した地方創生の推進
- 「デジタル技術を活用した文化芸術活動の推進」：文化芸術アーカイブの充実やデジタル技術を用いた文化財の保存

◆最近のトレンド

- 文化観光推進法（文化・観光・経済の好循環）、第3期関西観光・文化振興計画（文化と観光で織りなす「創造の関西」）、部活動地域展開、大阪・関西万博を活かしたレガシー

◆第3期計画骨子（新たな重点的方向性）

重点的方向性①：文化芸術とともに生きる

- 重点的施策1-1：多様な人が身近に文化芸術を享受できる機会の充実
- 重点的施策1-2：フェニーチェ堺等の文化施設を活かした堺の魅力発信

【評価指標】1年間に文化芸術を鑑賞した又は文化芸術活動を行った人の割合

- ▶新たに文化芸術活動を始めるきっかけを増やし、全ての人（こども、若年世代・子育て世代・現役世代、高齢者、障がい者、外国人等）が身近な地域で様々なジャンルの文化芸術活動に触れる機会を創出し、文化芸術のすそ野を広げる。
- ▶市民が身近な地域で文化芸術に触れる・活動できる場所として、フェニーチェ堺をはじめとした各地域文化会館において幅広い世代に向けて施設の魅力を発信し利用者の増加に繋げる。

重点的方向性②：文化芸術がこどもたちを育てる

- 重点的施策2-1：未来の文化芸術を担うこどもたちへの文化芸術に触れる場の提供
- 重点的施策2-2：こどもたちの育成に寄与する芸術家の育成

【評価指標】学校園や文化施設等で文化芸術鑑賞又は体験したこどもの人数

- ▶文化芸術は、創造力と感性を備えた豊かな人間性を育み、人間が人間らしく生きる糧となるものであり、こどもたちの教育において極めて重要である。乳幼児を含むこどもたちが身近な場所で文化芸術に親しむことができる機会（アウトリーチやインリーチ）を提供する。
- ▶こどもたちが文化芸術に触れる機会を増やすため、芸術家の育成を推進する。
- ▶学校や教育委員会と連携し、学校部活動の教育的意義を継承しつつ、全てのこどもが継続的に文化芸術活動に親しむ機会を提供する。

重点的方向性③：歴史と文化を未来へ伝える

- 重点的施策3-1：文化資源を活用した都市魅力の向上
- 重点的施策3-2：堺が誇る茶の湯文化のブランド力強化

【評価指標】さかい利晶の杜、伸庵での呈茶体験人数

- ▶古来から継承・発展してきた文化資源にイノベーションを加えることで、伝統の継承、都市魅力の向上、観光誘客等につなげ、文化・観光の振興、地域の活性化の好循環を創出する。
- ▶堺ならではの茶の湯文化が市民の生活の一部及び観光の重要なコンテンツになるよう取組を進める。
- ▶文化芸術資源を「保存」、「創造」、「発信」するためにデジタル技術を活用する。



茶の湯が息づく堺